

【Example 14.1】

放物線 $\mathfrak{P} : x^2 = 4py$ ($p > 0$) に対して、 \mathfrak{P} 上にない点 P から引いた 2 本の接線が直交する。
このとき、 P の描く軌跡の方程式を求めよ。

Point

- 放物線の直交 2 接線の交点の軌跡は準線である
- 楕円・双曲線の直交 2 接線の交点の軌跡は準円

【解説】

接点 Q, R の x 座標を a, b ($a < b$) とすると、
両接点における \mathfrak{P} の接線の方程式は、

$$\begin{cases} \mathfrak{L}_1 : 2ax - 4py - a^2 = 0 & \dots\dots(1.1) \\ \mathfrak{L}_2 : 2bx - 4py - b^2 = 0 & \dots\dots(1.2) \end{cases}$$

これらの交点を $P(x_0, y_0)$ と表すと、

$$x_0 = \frac{a+b}{2} \wedge y_0 = \frac{ab}{4p} \quad \dots\dots(1.3)$$

更に、 $\mathfrak{L}_1, \mathfrak{L}_2$ は直交するので、

$$\frac{a}{2p} \times \frac{b}{2p} = -1 \iff ab = -4p^2 \quad \dots\dots(1.4)$$

(1.3), (1.4) により、

$$y_0 = \frac{-4p^2}{4p} = -p (< 0) \quad \dots\dots(1.5)$$

従って、 P は放物線の準線 $y = -p$ 上にある。(必要条件)

次に、 Q, R の移動に伴い、 P は準線 $y = -p$ 上全体を移動することを示す。(充分性)

(1.3), (1.4) により、 a, b を解とする t の 2 次方程式は、

$$t^2 - (a+b)t + ab = 0 \iff t^2 - 2x_0t - 4p^2 = 0 \quad \dots\dots(1.6)$$

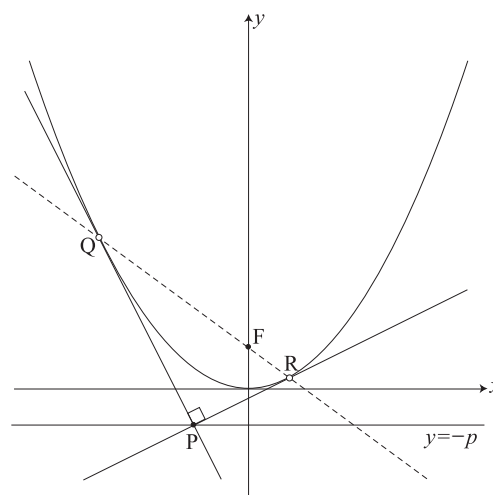
と表され、(1.6) の判別式を D と表せば、

$$D/4 = x_0^2 + 4p^2 > 0 \quad (\forall x_0) \quad \dots\dots(1.7)$$

(1.7) は、 P の x 座標 x_0 がすべての実数値をとり得ることを意味する。

従って、求めるべき軌跡の方程式は、

$$\text{準線} : y = -p \quad (-\infty < x < \infty) \quad \dots\dots(1.8)$$



[Note]

Q, R を結ぶ直線, 即ち, $P(x_0, y_0)$ を極とする放物線の極線は,

$$x_0x = 2p(y+y_0) \wedge x_0 = \frac{a+b}{2} \wedge y_0 = \frac{ab}{4p} \quad (\because (1.3)) \iff y = \frac{a+b}{4p}x - \frac{ab}{4p} \quad \dots\dots(1.9)$$

ここで, (1.9) と y 軸との交点は,

$$-\frac{ab}{4p} = -\frac{-4p^2}{4p} = p \quad (\because (1.4)) \quad \dots\dots(1.10)$$

即ち, 焦点 $F(0, p)$ であるので,

放物線には, 準線上の点を極とする極線は焦点を通る, という性質がある

【Review 14.1.1】

放物線 $y = ax^2$ ($a > 0$) 上の異なる 2 点 (x_1, ax_1^2) , (x_2, ax_2^2) ($x_1 < x_2$) において引いた 2 本の接線の交点を P とする. この放物線と 2 本の接線が囲む領域の面積が一定値 S を満たして P が移動するとき, その軌跡の方程式を求めよ.

【Review 14.1.2】

放物線 $y = ax^2$ ($a > 0$) に対して, 点 P から引いた 2 本の接線の交角が θ を保って P が移動するとき, その軌跡の方程式を求めよ. また, $\theta \rightarrow \pi/2$ のとき, 軌跡の極限の図形を調べよ. ただし, $0 < \theta < \pi/2$.

[Note] まず, $\theta = \pi/4$ で実験した後, 一般の θ で調べてみよ.

【Example 14.2】

放物線 $\varphi: y^2 = 4px$ ($p > 0$) の焦点を F とし、放物線上の任意の点を $P \neq O$ とする。
 P における接線は、直線 PF と、 P を通り放物線の対称軸に平行な直線との交角を 2 等分することを示せ。

【解説】

P における接線を ℓ_1 、 ℓ_1 の x 切片を Q 、直線 PF を ℓ_2 、
 P を通り、 x 軸に平行な直線を ℓ_3 とするとき、示すべき条件は、

$$\angle \ell_2 P \ell_1 = \angle \ell_1 P \ell_3 \quad \dots\dots(2.1)$$

ここで、

$$\angle \ell_2 P \ell_1 = \angle QPF \text{ (対頂角)} \wedge \angle \ell_1 P \ell_3 = \angle PQF \text{ (同位角)} \quad \dots\dots(2.2)$$

により、

$$\angle \ell_2 P \ell_1 = \angle \ell_1 P \ell_3 \iff \angle QPF = \angle PQF \iff FP = FQ \quad \dots\dots(2.3)$$

即ち、(2.3) の成立を示せばよい。

放物線の方程式を x で微分して、

$$2y \times \frac{dy}{dx} = 4p \quad (p > 0) \quad \dots\dots(2.4)$$

(2.4) より、 $P(t^2/4p, t)$ における接線の傾きは、

$$\left. \frac{dy}{dx} \right|_{(x,y)=(t^2/4p,t)} = \frac{4p}{2t} = \frac{2p}{t} \quad (\because P \neq O) \quad \dots\dots(2.5)$$

即ち、接線 ℓ_1 の方程式は、

$$y - t = \frac{2p}{t} \left(x - \frac{t^2}{4p} \right) \iff y = \frac{2p}{t} x + \frac{t}{2} \quad \dots\dots(2.6)$$

従って、 ℓ_1 の x 切片の座標は、

$$Q \left(-\frac{t^2}{4p}, 0 \right) \quad \dots\dots(2.7)$$

このとき、

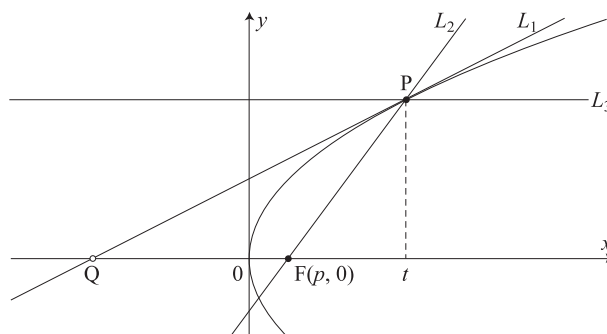
$$FQ = \left| p - \left(-\frac{t^2}{4p} \right) \right| = p + \frac{t^2}{4p} \quad (\because p > 0) \quad \dots\dots(2.8)$$

更に、

$$FP = \sqrt{\left(\frac{t^2}{4p} - p \right)^2 + t^2} = p + \frac{t^2}{4p} \quad \dots\dots(2.9)$$

(2.8), (2.9) により、

$$FP = FQ \quad \dots\dots(2.3)$$



Comment

一般に、放物線は次の性質を持つ。

- 放物線の対称軸に平行に入射した光線は、放物線上で反射して、その焦点を通過する。
- また、楕円、双曲線にも類似の性質がある。
- 楕円の一方の焦点から出た光線は、楕円曲線上で反射して、他方の焦点を通過する。
 - 双曲線の一方の焦点から出た光線は、双曲線上で反射して、他方の焦点から出た光線と重なる。
- これらの性質を確認するのが次の [Review] であり、証明には解析幾何的方法と初等幾何的方法の二通りある。

【Review 14.2.1】

楕円 \mathcal{E} : $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) の焦点を F, F' とする。

\mathcal{E} 上の任意の点 P における接線は、 $\angle FPF'$ の外角を 2 等分することを示せ。

【Review 14.2.2】

双曲線 \mathcal{H} : $\frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) の焦点を F, F' とする。

\mathcal{H} 上の任意の点 P における接線は、 $\angle FPF'$ を 2 等分することを示せ。

【Example 14.3】

- (1) 楕円 $\mathcal{E}: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > b > 0$) の方程式を焦点 $F(c, 0)$ を極とする極方程式に変換せよ.
- (2) 双曲線 $\mathcal{H}: \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) の方程式を焦点 $F(c, 0)$ を極とする極方程式に変換せよ.
- (1), (2) において, $c > 0$ とする.

Point

xy 直交座標と原点を極とする極座標 (r, θ) の関係;

$$r^2 = x^2 + y^2 \quad \wedge \quad \cos \theta = \frac{x}{\sqrt{x^2 + y^2}} \quad \wedge \quad \sin \theta = \frac{y}{\sqrt{x^2 + y^2}}$$

ここで, r は原点 O と点 $P(x, y)$ との距離を表し, θ は OP と x 軸の正方向とのなす角 (偏角) を表す.

【解説】

- (1) 楕円上の点 $P(x, y)$ と焦点 $F(c, 0)$ との距離を r とし, FP の偏角を θ とするとき,

$$\vec{OP} = \vec{OF} + \vec{FP} \iff \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} c \\ 0 \end{pmatrix} + r \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} r \cos \theta + c \\ r \sin \theta \end{pmatrix} \quad \dots\dots(3.1)$$

- (3.1) を楕円の方程式に代入して,

$$b^2(r \cos \theta + c)^2 + a^2(r \sin \theta)^2 - a^2b^2 = 0 \quad \wedge \quad c = \sqrt{a^2 - b^2} \quad \dots\dots(3.2)$$

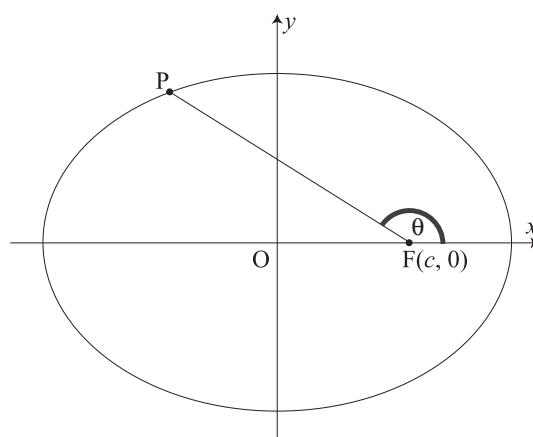
- (3.2) を r の方程式として整理して,

$$\begin{aligned} (b^2 \cos^2 \theta + a^2 \sin^2 \theta) r^2 + 2b^2c \cos \theta \cdot r + b^2(c^2 - a^2) &= 0 \quad \wedge \quad c = \sqrt{a^2 - b^2} \\ \iff (a^2 - (a^2 - b^2) \cos^2 \theta) r^2 + 2b^2 \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta \cdot r - b^4 &= 0 \\ \iff \left((a - \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta) r + b^2 \right) \left((a + \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta) r - b^2 \right) &= 0 \quad \dots\dots(3.3) \end{aligned}$$

ここで, (3.3) の第 1 因数は常に正なので, 第 2 因数より,

$$(a + \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta) r - b^2 = 0 \iff r = \frac{b^2}{a + \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta} \quad \dots\dots(3.4)$$

即ち, (3.4) が楕円 \mathcal{E} の極方程式である.



(2) 双曲線上の点 $P(x, y)$ と焦点 $F(c, 0)$ との距離を r とし, FP の偏角を θ とするとき,

(3.1) を双曲線の方程式に代入して,

$$b^2(r \cos \theta + c)^2 - a^2(r \sin \theta)^2 - a^2b^2 = 0 \quad \wedge \quad c = \sqrt{a^2 + b^2} \quad \dots\dots(3.5)$$

(3.5) を r の方程式として整理して,

$$\begin{aligned} (b^2 \cos^2 \theta - a^2 \sin^2 \theta) r^2 + 2b^2 c \cos \theta \cdot r + b^2(c^2 - a^2) &= 0 \quad \wedge \quad c = \sqrt{a^2 + b^2} \\ \iff ((a^2 + b^2) \cos^2 \theta - a^2) r^2 + 2b^2 \sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta \cdot r + b^4 &= 0 \\ \iff \left((\sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta - a) r + b^2 \right) \left((\sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta + a) r + b^2 \right) &= 0 \quad \dots\dots(3.6) \end{aligned}$$

(3.6) により,

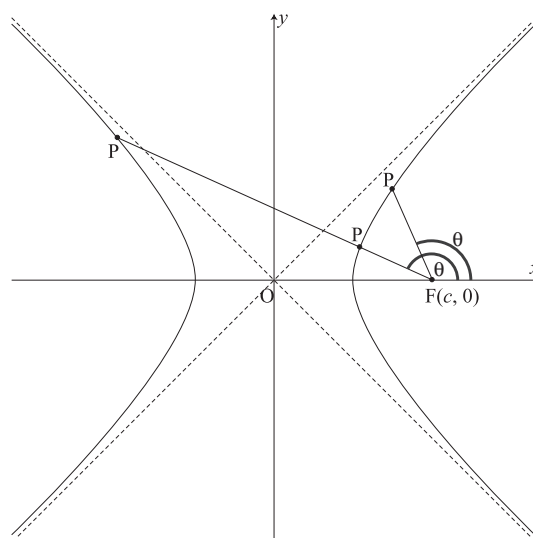
$$\begin{cases} r = \frac{b^2}{a - \sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta} & \dots\dots(3.7) \\ r = -\frac{b^2}{a + \sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta} & \dots\dots(3.8) \end{cases}$$

即ち, (3.7) は双曲線 γ の右側 $x > 0$ の部分を表し, (3.8) は γ の左側 $x < 0$ の部分を表す.

[Note] 放物線 $y^2 = 4px$ ($p > 0$) の場合,
焦点 $F(p, 0)$ を極とする極方程式は,

$$r = \frac{2p}{1 - \cos \theta}$$

と表せることを確認せよ.



Comment

2次曲線 (放物線・楕円・双曲線) に対して, その焦点を極とする極方程式は,

$$\begin{cases} \text{放物線} & y^2 = 4px & \dots\dots & r = \frac{2p}{1 - \cos \theta} \\ \text{楕円} & \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 & \dots\dots & r = \frac{b^2}{a + \sqrt{a^2 - b^2} \cos \theta} \\ \text{双曲線} & \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1 & \dots\dots & r = \frac{b^2}{a - \sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta} \quad \vee \quad r = -\frac{b^2}{a + \sqrt{a^2 + b^2} \cos \theta} \end{cases}$$

【Review 14.3.1】 97 帯広畜産大

(1) 点 $F(\sqrt{3}, 0)$ と直線 $x = \frac{4}{\sqrt{3}}$ からの距離の比が $\sqrt{3} : 2$ である点 $P(x, y)$ の軌跡を求めよ.

(2) (1) の F を極とし, x 軸の正の部分とのなす角 θ を偏角とする極座標を定めるとき,

(1) の P の軌跡を

$$r = r(\theta) \quad (r > 0, 0 \leq \theta < 2\pi)$$

の形の極方程式で求めよ.

(3) F を通る任意の直線と (1) で求めた曲線との交点を Q, R とするとき,

$$\frac{1}{QA} + \frac{1}{RA}$$

が一定であることを示せ.

【Review 14.3.2】

楕円

$$\mathcal{E}: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad (a > b > 0)$$

の一方の焦点を $F(c, 0)$ ($c > 0$) とし, F を極とする \mathcal{E} の極線を g で表す.

また, F を通る任意の直線と \mathcal{E} および g との交点を左から順に A, B, P とし,

$$AP = r_1, \quad BP = r_2, \quad FP = r_3$$

と表すとき,

$$r_3 = \frac{2}{\frac{1}{r_1} + \frac{1}{r_2}} \quad (\text{調和平均})$$

が成り立つことを示せ.

【Example 14.4】 94 工学院大

(1) 曲線

$$\mathcal{C}_1 : ax^2 + bxy + cy^2 + d = 0 \quad \dots\dots(4.1)$$

を原点の周りに角 θ 回転した図形の方程式を求めよ.

(2) 曲線

$$\mathcal{C}_2 : (10 + 3\sqrt{3})x^2 + 6xy + (10 - 3\sqrt{3})y^2 - 16 = 0 \quad \dots\dots(4.2)$$

は楕円を表すことを示せ. また, その長軸と短軸の長さや焦点の座標を求めよ.

【解説】(1) 点 (x, y) を原点中心に角 θ 回転した点を (x', y') と表すとき, 回転行列を用いて,

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad \dots\dots(4.3) \quad \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} \quad \dots\dots(4.4)$$

と表せるので, (4.4) により,

$$x = x' \cos \theta + y' \sin \theta \quad \wedge \quad y = -x' \sin \theta + y' \cos \theta \quad \dots\dots(4.5)$$

このとき, (4.5) により,

$$\begin{cases} x^2 = \frac{1}{2}((x')^2 - (y')^2) \cos 2\theta + x'y' \sin 2\theta + \frac{1}{2}((x')^2 + (y')^2) & \dots\dots(4.6) \\ y^2 = \frac{1}{2}((y')^2 - (x')^2) \cos 2\theta - x'y' \sin 2\theta + \frac{1}{2}((x')^2 + (y')^2) & \dots\dots(4.7) \\ xy = \frac{1}{2}((y')^2 - (x')^2) \sin 2\theta + x'y' \cos 2\theta & \dots\dots(4.8) \end{cases}$$

と表せるので, (4.6), (4.7), (4.8) を (4.1) に代入して,

$$\begin{aligned} & \frac{1}{2}((a-c) \cos 2\theta - b \sin 2\theta + a+c)(x')^2 \\ & + \frac{1}{2}((-a+c) \cos 2\theta + b \sin 2\theta + a+c)(y')^2 \\ & + ((a-c) \sin 2\theta + b \cos 2\theta)x'y' + d = 0 \quad \dots\dots(4.9) \end{aligned}$$

ここで, x', y' を x, y に書き改めれば,

$$\begin{aligned} & ((a-c) \cos 2\theta - b \sin 2\theta + a+c)x^2 \\ & + ((-a+c) \cos 2\theta + b \sin 2\theta + a+c)y^2 \\ & + 2((a-c) \sin 2\theta + b \cos 2\theta)xy + 2d = 0 \quad \dots\dots(4.10) \end{aligned}$$

即ち, (4.10) が求める方程式である.

(2) \mathcal{C}_2 が楕円を表すためには、適当な θ に対して、

(4.10) が楕円の標準形

$$\frac{x^2}{A^2} + \frac{y^2}{B^2} = 1 \quad \dots\dots(4.11)$$

と同値であればよいので、(4.10)における xy の係数に対して、

$$(a - c) \sin 2\theta + b \cos 2\theta = 0 \quad \dots\dots(4.12)$$

を満たす θ_0 を求め、 θ_0 に対する x^2, y^2 の各係数を調べればよい。

題意より与えられた係数は、

$$(a, b, c, d) = (10 + 3\sqrt{3}, 6, 10 - 3\sqrt{3}, -16) \quad \dots\dots(4.13)$$

このとき、(4.12)により、

$$\sqrt{3} \sin 2\theta + \cos 2\theta = 0 \iff \sin\left(2\theta + \frac{\pi}{6}\right) = 0 \iff 2\theta + \frac{\pi}{6} \equiv 0 \pmod{\pi} \quad \dots\dots(4.14)$$

(4.14)の解として、 $\theta_0 = -15^\circ$ を選ぶと、

\mathcal{C}_2 を原点中心に -15° 回転させた図形 \mathcal{C}_2' の方程式は、

$$\mathcal{C}_2' : 16x^2 + 4y^2 = 16 \iff x^2 + \frac{y^2}{4} = 1 \quad \dots\dots(4.15)$$

即ち、 \mathcal{C}_2 に適当な回転を与えて標準形 \mathcal{C}_2' に移るので、 \mathcal{C}_2 は楕円を表すといえる。

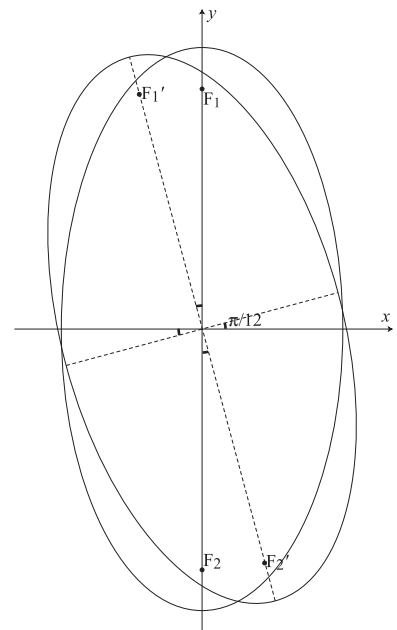
更に、(4.15)により、 \mathcal{C}_2 の長径は4、短径は2である。

また、 \mathcal{C}_2' の焦点は $(0, \pm\sqrt{3})$ であるので、これを原点中心に 15° 回転して、

$$\begin{pmatrix} \cos 15^\circ & -\sin 15^\circ \\ -\sin 15^\circ & \cos 15^\circ \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ \pm\sqrt{3} \end{pmatrix} = \frac{1}{2\sqrt{2}} \begin{pmatrix} \sqrt{3}+1 & -\sqrt{3}+1 \\ \sqrt{3}-1 & \sqrt{3}+1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ \pm\sqrt{3} \end{pmatrix} = \frac{\pm\sqrt{3}}{2\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -\sqrt{3}+1 \\ \sqrt{3}+1 \end{pmatrix} \quad \dots\dots(4.16)$$

即ち、 \mathcal{C}_2 の焦点の座標は、

$$\left(\pm \frac{-3 + \sqrt{3}}{2\sqrt{2}}, \pm \frac{3 + \sqrt{3}}{2\sqrt{2}} \right) \quad (\text{複号同順}) \quad \dots\dots(4.17)$$



Point

方程式 $ax^2 + bxy + cy^2 + px + qy + r = 0$ の表す図形は、2 次曲線 (双曲線・放物線・楕円) であり、適当な座標変換 (回転移動・平行移動) により、次のいずれかの標準型に変換される。

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad \vee \quad \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad \vee \quad x^2 = 4py \quad \vee \quad y^2 = 4px$$

これを 2 次曲線の標準化といい、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号によって、次のように判別される：

$$D > 0 \cdots \text{双曲線}, \quad D = 0 \cdots \text{放物線}, \quad D < 0 \cdots \text{楕円}$$

【Review 14.4.1】

次の 2 次曲線を標準化せよ。

- (1) $7x^2 + 48xy - 7y^2 + 20x - 110y - 50 = 0$ (2) $11x^2 + 4xy + 14y^2 - 4x - 28y - 16 = 0$
 (3) $x^2 - 4xy + 4y^2 - 6x - 8y + 5 = 0$

【Review 14.4.2】 95 千葉大

平面上の 2 点 $A(-1, -1)$, $B(1, 1)$ からの距離の和が 10 であるような点 P の軌跡を \mathcal{C} とする。

- (1) \mathcal{C} の方程式が $ax^2 + by^2 + cxy = 1$ の形になるとき、 a, b, c の値を求めよ。
 (2) \mathcal{C} を原点の周りに -45° 回転させた曲線 \mathcal{C}' の表す方程式を x, y の式で求めよ。